地質情報展 2013 みやぎ 展示と解説のコーナー 津波堆積物に関する展示報告

澤井祐紀[1),3)]・谷川晃一朗[1)]・松本　弾[1)]・田村　亨[2)]・池原　研[2)]

仙台市科学館で行われた「地質情報展2013みやぎ」において，津波堆積物に関するパネル展示を行いました．展示内容は，「西暦869年貞観津波の痕跡」「世界各地の津波堆積物」「仙台平野における津波堆積物の調査地点」「海底に残された津波の痕跡―浅海から深海まで―」「海底に残された津波の痕跡―仙台湾での調査―」の5点です．パネルを作成する際には，説明文はなるべく短くし，図の構成も単純化するように心がけました．陸上における貞観津波の痕跡に関するパネルには，2013年3月に作製したばかりのはぎ取り標本も並べて展示しました（写真1）．

当日は，2011年東北地方太平洋沖地震による津波で被災された方にも来ていただきました．そのなかの多くは，新聞報道などで貞観津波に関する研究をご存じのようでした．しかしながら，実際に堆積物の実物標本をご覧になったことがあるという方は少なく，平安時代の津波の痕跡がしっかりと残っていることに驚き，そうした地層の保存方法について興味深く話を聞いてくださいました．最も多かった質問は，「はぎ取り標本の砂層がどうして津波堆積物だとわかるのか」という本質的かつ専門的なものでした．それに対し，砂層の中に海の生物の化石が含まれていること，砂層の形成年代が古文書の津波記録と一致すること，そうした調査を広い範囲で行う必要があることを説明し，納得していただきました．また，過去の津波堆積物の調査地域が太平洋側に偏っており，日本海側での調査はどうなっているのかという指摘も受けました．こうした質問を一般の方々からいただく背景の一つとして，この数年において自治体が積極的に津波堆積物の調査を行うようになったことが大きいと思いました．さらに，今回の展示では，陸上だけでなく海で行った津波堆積物調査に関するパネルも展示しました（写真2）が，そちらには仙台湾の漁師の方にも来ていただき，津波に関する情報を教えていただく機会もありました．

今回の会場は，2011年に大きな被害を受けた場所であり，津波堆積物調査についての展示をどのように受け止めていただけるか，不安な部分がありました．しかしながら，

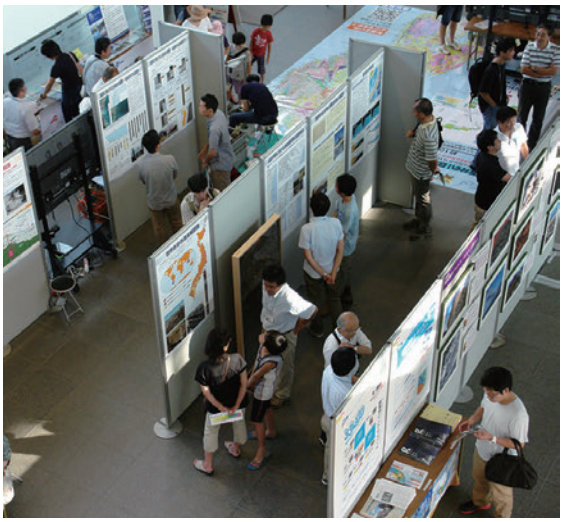

写真1　津波堆積物に関する展示の様子（写真撮影：川畑　晶氏）．

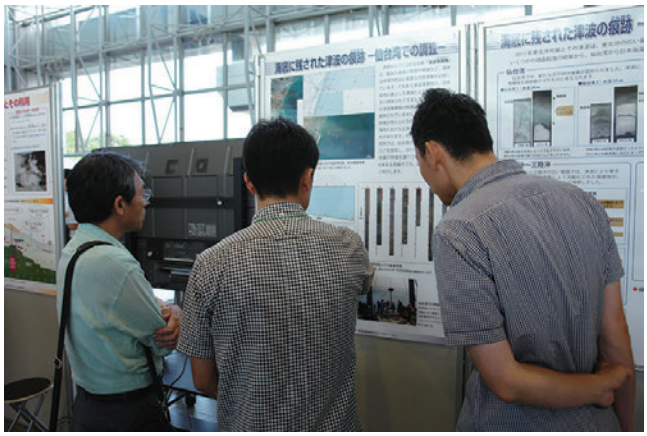

写真2　時には専門的な質問もいただきました（写真撮影：川畑　晶氏）．

当日は，研究の内容について冷静かつ熱心に耳を傾けていただき，今後の調査について多くの方々に励ましていただきました．展示の反省点としては，はぎ取り標本の展示場所がパネルに囲まれており，時間によっては標本が見にくくなってしまったことです．今後の展示では，ライトアップなどを工夫していきたいと考えています．

SAWAI Yuki, TANIGAWA Koichiro, MATSUMOTO Dan, TAMURA Toru and IKEHARA Ken (2014) Report on exhibition of tsunami deposits in the Geoscience Exhibition in Miyagi 2013.

（受付：2013 年 11 月 18 日）

1）産総研 活断層・地震研究センター
2）産総研 地質情報研究部門
3）産総研 地質標本館

キーワード：2011 年東北地方太平洋沖地震，津波堆積物，展示